

中島らも ぼくが踏まれたまち

(一社)あまがさき観光局主催 尼崎市共催
没後20年特別展

令和6年
12月7日(土) ~ 1月19日(日)
令和7年
1月19日(日) ~ 2月2日(日)

尼崎開明rooms
(尼崎市開明庁舎内)

会期 | 令和6年12月7日(土)~令和7年1月19日(日)
午前10時~午後5時(土・日・祝日は午後6時まで)
休館日 | 月曜日(祝日の場合は翌平日)
年末年始(令和6年12月30日(月)~令和7年1月3日(金))

料金 | 入場無料
会場 | 開明rooms(尼崎市開明町2-1-1 尼崎市開明庁舎1階)
主催 | 一般社団法人あまがさき観光局
共催 | 尼崎市
協力 | 中島らも事務所
制作 | 合同会社eitoeiko

出展原稿
僕に踏まれた町と僕が踏まれた町
今夜、すべてのパーで
西方元土
ガダラの豚
ロバに耳打ち
ロカ



イラスト 中島らも事務所
写真提供 あまがさきアーカイブズ
※モノクロ写真に着色

尼崎に生まれ、独創的な発想とユーモアで幅広く活躍した作家、中島らも。

劇作家、ミュージシャン、放送作家、ラジオパーソナリティ、小説家など、多方面に才能を発揮した中島らもは1952年兵庫県尼崎市に生まれました。没後20年特別展「中島らも ほくがうまれたまち」では、自筆原稿や口述筆記原稿に加え、初掲載時の雑誌や単行本として刊行された書籍、当時の尼崎の写真といったさまざまな資料から多彩な活動の一端を振り返り、「文筆家」としての「らも」を地元・尼崎とともに紹介します。

中島らもってどんな人？

らもが生まれた頃の尼崎

中島らも(本名：中島^{ゆうし}裕之)は1952年、歯科医の父・禎次郎と母・敏子の次男として生まれました。尼崎では尼ロックの第一関門が1954年に完成し、町の大きな発展が始まろうとしています。



1952年頃
阪急百貨店にて



変わり喫茶 自筆原稿 1987年
読みない筆致で書かれたエッセイでは、地元尼崎の喫茶店について触れています。

お茶の間を沸かす人気者に

大阪、東京で暮らし、自宅にはあまり帰らなくなっていたらもですが、エッセイではたびたび尼崎で過ごした頃を振り返っています。

町並みが緑を取り戻していく中、2004年に死去。



1980年代末
自宅にて

灘中、灘高から大阪芸術大学へ

超進学校に入学した中島らも。ところが高校の途中から落ちこぼれてしまいます。高校3年生のときに三宮のジャズ喫茶で長谷部美代子と出会い、浪人時代を経て大阪芸大に入学、らもは学生結婚します。尼崎は成長とともに公害問題が深刻化していました。



1976年頃
結婚後、立花のマンションにて

「中島らも」の誕生

らもは1977年末に宝塚市に家を購入するまで、尼崎に住みました。印刷会社を辞めて広告代理店に転職し、1982年に発表した『啓蒙かまぼこ新聞』が反響をよび、ラジオからテレビへと活躍の場を広げていきます。



1982年頃 勤務先にて

トークイベント 中島さなえ × 癸生川栄

1/5(日) 13:00~15:00 展示会場内にて 入場無料
中島らもの長女でミュージシャン、小説家の中島さなえさんと本展を企画したeitoeikoのアートディレクター癸生川栄が展示作品について語ります。

尼崎開明ルームス について

開明rooms(かいめいルームス)は、開明の名前のごとく、尼崎で開かれた明るい文化観光の賑わいを作り出すため、尼子騷兵衛漫画ギャラリーとともに、展示会やイベントスペースとして活用していきます。

会場案内



〒660-0862 兵庫県尼崎市開明町2-1-1 尼崎市開明庁舎1階
TEL 06-6409-4946 FAX 06-6417-5146 <https://kansai-tourism-amagasaki.jp/>